

本日の御議論（論点例）①

＜総論＞ 将来需要の不確実性と供給力確保の在り方

- 将来需要をどのように見積もるか。カーボンニュートラルに向けた電化の進展等を見据え、あり得べき最大需要を見積もることについて、どのように考えるか。
- 将来需要に相当の不確実性がある中で、どのような想定に合わせて供給力の必要性を見積もるか。安定供給の確保には、最大需要に合わせた供給力の確保が欠かせない一方、社会コストの徒な増大をもたらす点について、どのように考えるか。
- 将来の供給力をどのように確保するか。FIT・FIPや長期脱炭素電源オークションのような公的支援なしに、ビジネスベースでの電源建設はどこまで期待できるか。例えば、需要家が直接的に関与するPPAの増大について、どのように考えるか。
- 供給力の確保において、新規の電源建設と、既存電源の退出管理の在り方について、どのように考えるか。後者を徹底できれば、前者を最大需要に合わせる必要はないと考えられるか。
- 将来的な供給力の確保に際し、電源の種類をどのように考慮するか。容量市場や長期脱炭素電源オークションにおいて、電源の種類に応じて調達量を定めることについて、どのように考えるか。

本日の御議論（論点例）②

＜各論＞ 揚水の在り方

- 将来的な揚水の必要量について、どのように考えるか。応答性の高い調整力として再エネの導入拡大に欠かせないと考えられる一方、蓄電池やDRなど、他の方策も考えられる中で、揚水の位置付けについて、どのように考えるか。
- 適地の制約や、一定の期間、相応の投資が必要となる中、今後の揚水発電への投資について、どのように考えるか。
- 夏冬の高需要期の供給力としての揚水の役割と、春秋の低需要期の調整力としての揚水の役割について、どのように考えるか。需給ひっ迫を回避する観点からは、前者を優先し、春秋に補修点検を行うことはやむを得ないと考えて良いか。
- 今後の補修点検の在り方について、どのように考えるか。追加的なコストを要する点検時期の調整に対し、相当の対価を支払うことのメリット・デメリットについて、どのように考えるか。

本日の御議論（論点例）③

＜各論＞ 自家発の位置付け

- カーボンニュートラルに向けた脱炭素化の取組が求められる中で、自家発の在り方について、どのように考えるか。
- 脱炭素化を進める上では、個別の自家発による取組に限界がある一方、従来の自家発需要が系統需要へ転換されていく場合には、新たな系統整備の必要もあり得ることについて、どのように考えるか。
- 仮に現在の自家発需要が系統需要に切り替わっていく場合、どのような課題が考えられるか。中長期の電力需給を見据えた場合、多くの自家発を有する業界と、どのような議論を進めていくことが重要となるか。